

2025 年 2 月 10 日

トーア再保険株式会社

『再保険 その理論と実務 [改訂新版]』発行について

トーア再保険株式会社（本社：東京都千代田区、取締役社長：松永祐明）は、『再保険 その理論と実務 [改訂新版]』を発行いたしました。

本書は、1999 年に発刊、2011 年 12 月に改訂版を発行した再保険実務書を当社創立 85 周年の記念事業として改訂したものです。2011 年の改訂版発行から 10 年以上経過したことを踏まえ、統計データの更新、法規制等の変化を反映するとともに、新型コロナウイルスへの対応を含む社会情勢の変化に応じた再保険実務上の新たな留意点等を織り込んでおります。書誌情報、内容の詳細につきましては、次ページ以降をご参照ください。また、本書に対しては、早稲田大学商学学術院の中出哲教授より書評（後掲）を頂いております。

本書は、当社の子会社である株式会社スンダイが販売しております。購入は当社のホームページ内の購入申込フォームより、スンダイまでご連絡ください。

以上

本件に関するお問い合わせ先

総務部第 1 チーム TEL : (03) 3253-3672

R e i n s u r a n c e

再保険

その理論と実務

[改訂新版]

トーア再保険株式会社 編

Cedant Reserve Cover Limit Ultimate Net Loss
Underwriting Reinsurer
Contract Wording Retrocession
Excess of Loss Cover Incurred But Not Reported
Gross Net Premium Income Rate on Line Quota Share Treaty

リスクの巨大化・複雑化のなかで重要性を増す再保険。
その理論と実務に関する唯一の日本語による書籍が、
最新の情報を反映し、読みやすさも工夫された改訂新版として再登場。

グローバルに広がる再保険の実務と
リスク分散の知恵を学ぼうえでの必読書である。

早稲田大学商学学院教授 中出 哲氏

A5 版 616 ページ

2025 年 2 月 10 日発行

頒価：本体価格 5,000 円＋税

販売：株式会社スンダイ

<目次>

総 論

1. 再保険の意義と目的
2. 再保険の種類
3. 再保険の歴史
4. 再保険の法的側面

第Ⅰ部 損害再保険

第1章 再保険マーケットの概要

1. 再保険マーケット
2. 再保険プレーヤー
3. 近年のマーケット動向
4. 代替的リスク移転の手法

第2章 任意再保険

1. 任意再保険
2. 任意再保険の仕組み
3. 任意再保険の契約実務
4. 任意再保険の勘定実務
5. 任意再保険の実務上の注意点

第3章 プロポーショナル特約再保険

1. 特約再保険
2. プロポーショナル特約の仕組み
3. プロポーショナル特約の種類
4. プロポーショナル特約再保険の年間業務
5. プロポーショナル特約再保険の特約書の解説

第4章 ノン・プロポーショナル再保険

1. ELC とノン・プロポーショナル再保険
2. ELC の仕組み
3. ELC の実務における重要事項
4. ELC の年間業務
5. ELC の特約書の解説
6. ELC 以外のノン・プロポーショナル再保険

第5章 保有額決定の諸要素と再保険カバーのコーディネーション

1. 保有の概念
2. 保有額決定の諸要素

3. 保有額の決定
4. 異常危険準備金と再保険
5. 各種再保険カバーの効用
6. 各種再保険カバーの適合する分野
7. 再保険カバーの組合せによる比較検証
8. 再保険プール

第6章 再保険取引の計上・決済

1. 再保険勘定書
2. 各再保険形態における再保険勘定書の作成業務
3. 決済

第7章 再保険契約の管理

1. 特約再保険の成績把握
2. 再保険成績における未払保険金と既発生未報告損害
3. ラン・オフ特約の管理
4. コミュテーション
5. 受再者のセキュリティ管理
6. 倒産保険会社の実情と再保険処理

第8章 海外再保険の引受実務

1. 日本における海外再保険の沿革と現状
2. 海外再保険の引受実務

第Ⅱ部 生命再保険

第1章 生命再保険マーケットの概要

1. 世界の生命再保険マーケットの特徴
2. 世界の主な生命再保険プレーヤー
3. 日本の生命再保険マーケット

第2章 生命再保険の基礎

1. 生命再保険の特徴
2. 生命再保険の用途
3. 生命再保険の分類

第3章 任意再保険

1. 任意再保険の活用方法
2. 契約査定にかかわる元受会社と再保険会社の相違
3. 長所と短所
4. 再保険形態の種類
5. 任意再保険協約

第4章 自動再保険

1. 危険保険料式再保険協約
2. 共同保険式再保険および修正共同保険式再保険協約
3. 超過損害額再保険協約等
4. 協約書例

第5章 財務再保険およびその他の再保険

1. 財務再保険
2. 日本における財務再保険
3. その他の再保険

第6章 生命再保険事務管理

1. 出再保険事務管理
2. 出再保険管理
3. 勘定書、計上・決済

第Ⅲ部 再保険にかかわる監督・規制とリスク管理

第1章 再保険にかかわる監督・規制・制度

1. 保険監督者国際機構（IAIS）
2. 各国の監督・規制
3. 国際会計基準

第2章 リスク管理と再保険

1. 保険会社のリスク管理
2. 保険引受リスク管理
3. 保険引受リスクの定量分析
4. ERMにおける再保険の果たす役割

<書評> 早稲田大学商学大学院 中出 哲教授

本書は、1999年に出版された『再保険 その理論と実務』の改訂新版である。原著は、トーア再保険株式会社の新創業50周年記念事業の一環として出版された。当時、再保険に関する理論や実務は、再保険業務に携わるごく一部の人にしか知られていなかったが、同書の出版によって、その知は、保険関係者はもとより、周辺分野の実務家や研究者にも共有されることになった。その後、2011年12月に改訂版が出版され、13年を経て、今般、改訂新版が出版された。

本書は、損害再保険のみならず生命再保険についても網羅した再保険の理論と実務に関する唯一の日本語文献で、改訂新版の出版は、多くの方が待ち望んでいたものである。

本書は、総論（再保険の歴史と法根拠等）、第Ⅰ部：損害再保険、第Ⅱ部：生命再保険、第Ⅲ部：監督規制とリスク管理から構成されている。

総論では、再保険の意義、種類、歴史、法律などの基本的な内容を説明し、第Ⅰ部の損害再保険では、再保険の市場、任意再保険・特約再保険の詳細、契約管理などについて丁寧に解説している。

第Ⅱ部では、生命再保険について、同様に、最新のデータと実務をもとに解説している。

第Ⅲ部は、再保険に関する監督規制やリスク管理に関するもので、IFRSについても簡潔に説明している。再保険関係の複雑な規制の全体像を知るうえで有益である。

本書は、予測が難しいリスクをいかに引き受けるかという技術の説明でもある。再保険の技術は、14世紀まで遡るもので、長い年月をかけて作り上げられてきた。また、再保険契約の文言は、欧米、とりわけ英国などで発展した契約原則によって支えられている。本書では、再保険の契約実務も解説していて、グローバルな保険契約の特性を知るうえでも参考になる。

ところで、私は、保険が対象とするリスクの特性に着目し、大数の法則を利用して運用できるマスリスクの保険とそれが難しい非マスリスクの保険に分けて、保険の理論、契約、監督規制などを研究している。

情報技術やAIの進化によってサイバーリスクなどの新しいリスクが出現し、また、戦争リスクも増大している。これらは典型的な非マスリスクで、それに対して保険を提供するためには再保険が不可欠であることはいままでもない。一方、一般的にはマスリスクの保険といえる火災保険でも自然災害は巨大化し、生命保険においてもパンデミックリスクがある。非マスリスクへの対処はますます重要となり、再保険によるバックアップがなければ、保険制度が維持できない状況になりつつある。

わが国の保険市場を鳥瞰すると、個人分野の保険は一定の浸透が図られているとい

えるが、企業分野については、その多様なリスクに対するプロテクションギャップは大きく、リスク・マネジメントの強化とともに、リスクに応じた保険の提供が求められている。それらの必要性については、2024年に開催された金融庁の有識者会議や金融審議会のワーキング・グループでも指摘されており、今後、改善がすすむことが期待されている。しかし、それが可能となるかどうかは再保険によるリスク分散を適切に手配できるかにかかっている。

保険は、わが国の経済の安定や発展を支えている。そして、その保険を支えるのが再保険である。再保険の理解は、保険会社のみならず事業会社にも不可欠である。本書が日本の保険市場の発展に果たす役割は極めて大きい。本書が、多くの方々に読まれることを期待したい。

以上